

平成××年×月×日

公益財団法人とくしま産業振興機構理事長 殿

申請者（中小企業者）

所在地 ○○市○○町

名称 ○○食品株式会社

代表者名 代表取締役 ○○ ○○ 印

申請者（農林漁業者）

所在地 △△市△△町

名称 △△農園

代表者名 △△ △△ 印

農商工連携ファンド事業助成金交付申請書

下記のとおり農商工連携ファンド事業を実施したいので、農商工連携ファンド事業助成金交付要領第3条の規定により、次のとおり関係書類を添えて申請します。

1 助成事業区分

（ 新商品・技術開発支援事業 ）

2 助成事業（連携事業）のテーマ

（ 規格外の有機野菜を活用した漬け物の開発事業 ）

3 助成事業の目的及びその内容

別紙1の「助成事業計画書」のとおり

4 助成事業に要する経費及び助成金交付申請額

- （1）助成事業に要する経費 金4,000,000円
- （2）助成対象経費 金3,000,000円
- （3）助成金交付申請額 金1,998,000円

5 関係書類

- ①助成事業計画書（別紙1）
- ②収支予算書（別紙2）
- ③経費配分書（別紙3）
- ④助成事業を実施するために必要な資金の額及びその調達方法（別紙4）
- ⑤助成事業費の積算明細表（別紙5）
- ⑥申請者（組織・グループ等）の概要確認表
- ⑦その他附属資料

※連携体代表者の損益計算書、貸借対照表、過去3年間の財務諸表、法人登記簿謄本の写し

※申請者は各々1者以上は記載し、連携体代表者を上位に記載のこと。

コメント【参考1】: 連携体の代表者を上位に記載してください。

コメント【参考2】: 連携体とは、中小企業者と農林漁業者による事業共同体で、その事業が双方の経営資源を活用し、互いに役割を分担して一定の目的達成のために共同して取り組むものであり、これによって地域経済の活性化に資するものであることです。申請する事業もこの連携体の要件を満たす内容としてください。

コメント【参考3】: 簡潔に事業の内容が分かるようにテーマをつけて下さい。

(別紙1)

助成事業計画書

助成事業区分	新商品・技術開発支援事業
--------	--------------

1 申請者（連携体代表者）の概要

申請者の名称	〇〇食品株式会社		
代表者の氏名	〇〇 〇〇		
住所	〇〇市〇〇町		
電話番号	〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇		
URL	http://www.		
資本金・出資金	10,000千円	従業員数	50人
主たる業種	加工食品製造業	設立日	平成10年4月

*申請者の会社の概要がわかるパンフレット、**経営状況**等を必ず添付すること。

*申請者が任意グループの場合は、別紙6を作成し添付すること。

2 連携体構成員

	名称 (企業名等)	代表者	住所	資本金	従業員	業種
1	△△農園	△△ △△	△△市△△町	—	5名	農業者
2						
3						
4						
5						
(連携体代表者)						中小企業者

* 連携体構成員の会社の概要がわかるパンフレット、経営状況等を必ず添付すること。

3 事業内容

事業のテーマ	規格外野菜を活用した漬け物の開発
具体的事業内容	
事業内容	<p>① 事業の内容</p> <p>規格外の有機野菜を使った漬け物を開発する。</p> <p>② 事業を行うに至る背景或いは現状、その問題点等、問題点を解決するために事業を行う必要性、関連等</p> <p>当社は、漬け物等の食品加工メーカーである。最近の食品等の価格高騰により全体的に消費が冷え込む中、当社の漬け物製品の販売も低調となっており、コストダウンを図って販売量を伸ばしていく必要がある。また食の安全に対する消費者の意識が高まる中、当社としても安心して消費できる商品を提供していかなければいけない。そこで、規格外の有機野菜を安く仕入れて漬け物製品のコストダウンを図るとともに、安全な漬け物の大量生産を図る。従来、規格外野菜は、市場価値が少なく、販売ルートもなく、連携体構成員である△△農園においても、自家消費する以外の分は廃棄処分していた。その量は年間で〇〇トンに上る。規格外野菜は、例えば規格以上に成長したものの方がかえって味がよいなど、品質には問題はない。ところが、規格外の野菜を漬け物用に加工するには、当社にある現設備では対応できなく、専用の加工設備を開発する必要がある。</p> <p>③ 申請する目的、事業内容の詳細、事業の新規性（改良点など）等</p>

コメント [参考4]: 業種欄は、中小企業者、農業者、林業者、漁業者のいずれかを記載して下さい。

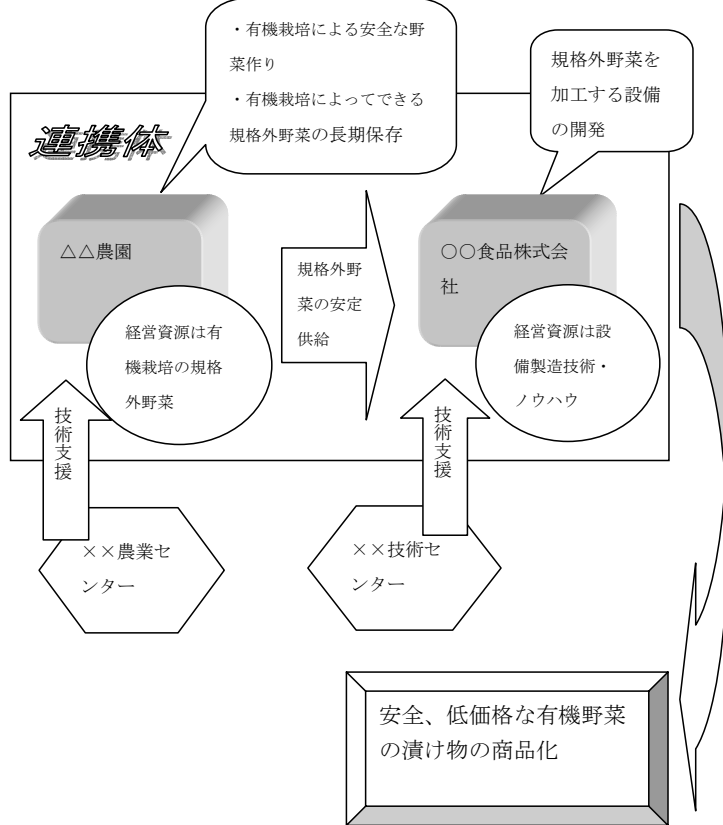
	<p>当社の漬け物製品のコストダウン、大量生産を図り、かつ従来商品価値が少なかった規格外の野菜に商品価値を見だし、当社及び△△農園の売上げ増を図ることを目的とする。</p> <p>具体的には、当社において規格外野菜を細かく加工する設備を開発する。現設備では、〇〇〇のため、規格外野菜の加工には対応していない。そこで現設備の〇〇〇を×××に改良して規格外野菜の加工ができるようにする。一方野菜農家は、安全な食品の提供のため、有機栽培方法を導入して、栽培過程で生じた規格外の野菜を収穫し、長期保存設備を導入して、安全で安定した供給体制を整える。</p>												
必要性	<p>当社の現状を打開して、販売量を増やすためには、コストダウンは急務である。また、△△農園の所得を上げるために、規格外の野菜という経営資源を有効に活用することが必要である。</p> <p>また、市場においても、一刻も早く低価格で安全、おいしい食品が流通することの必要性は大きい。</p> <p>また、規格外の野菜や果物の有効活用は、全国的には散見されており、このような流れが一般的になる前にこの事業を成功させる必要がある。</p>												
市場性	<p>現在、食の安全が叫ばれる中、例えば輸入野菜を使った漬け物より、やはり国産の野菜を使った漬け物は、それだけでブランドとなる。また、有機栽培の規格外野菜を使うことで、安全でかつ安い商品が流通すれば、市場性はあると考えている。</p> <p>漬け物は、日本で古くから食されており、毎日の食卓に欠かせないものであり、市場自体は安定している。現在の日本の漬け物消費量は〇〇、市場規模は〇〇となっている。</p> <p>また、最近では中国などでも、日本の漬け物の消費が増えており、低価格で大量生産により、海外市場も視野に入れることが可能である。</p> <p>そして、食の安全志向が高まる中、国内産の野菜を使った、安くておいしい製品は、市場のニーズにあっていると考える。</p>												
革新性	<p>漬け物製品の安全性向上、低価格化を図ることで、他社製品との差別化を図ることが可能である。また、規格外の野菜を長期保存することにより、安定した生産体制が可能となる。</p>												
実現可能性	<p>当社では、野菜の加工設備の製造も行っており、規格外野菜に対応する設備の開発は可能と考えている。現在既に、現設備の問題点、改良ポイント等は把握しており、それを設計、試作する段階である。</p>												
地域活性化へ期待される効果	<p>規格外の有機野菜の漬け物の大量生産が可能となれば、当社の生産量、販売量は、増加する。また連携体構成員である△△農園は、これまで商品価値がなかった規格外の野菜を販売することができ、売上げ増につながる。</p> <p>また、地元農産品全体のブランド化、地域経済の活性化につながる。</p>												
連携体構成員の役割等	<table border="1"> <thead> <tr> <th>連携体構成員</th> <th>役割</th> <th>活用する経営資源</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>〇〇食品株式会社</td> <td>規格外野菜の加工設備試作品の開発及び漬け物試</td> <td>設備製造技術、ノウハウ</td> </tr> <tr> <td>△△農園</td> <td>有機栽培、長期保存設備の導入</td> <td>規格外の有機野菜</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 「活用する経営資源」欄には、持ち寄る産品、技術、ノウハウ等の経営資源の内容を記載すること。</p>	連携体構成員	役割	活用する経営資源	〇〇食品株式会社	規格外野菜の加工設備試作品の開発及び漬け物試	設備製造技術、ノウハウ	△△農園	有機栽培、長期保存設備の導入	規格外の有機野菜			
連携体構成員	役割	活用する経営資源											
〇〇食品株式会社	規格外野菜の加工設備試作品の開発及び漬け物試	設備製造技術、ノウハウ											
△△農園	有機栽培、長期保存設備の導入	規格外の有機野菜											
事業の実施日程	<p>(開始予定日) 平成××年×月×日 (完了予定日) 平成××年×月×日 (最終完了予定日) 平成 年 月 日 ※事業期間が複数年の場合に記載</p>												

コメント [参考5]: 開発のポイント、新規性、従来の事業との相違点等を、具体的に、分かりやすく記載してください。

コメント [参考6]: 客観的なデータ等を用いて、具体的に記載してください。また、ターゲット層などの販売戦略等も記載してください。

事業実施体制

①. 事業実施体制、事業概要のイメージ図



コメント [参考7]: 連携の概要、事業の実施体制、概要が分かるイメージ図を作成してください。

② 別紙に連携体の設置要項を添付

コメント [参考8]: 連携体に関する合意等が確認できるものを提出してください

③ スケジュール

時期	〇〇食品株式会社	△△農園
4月	専門家招聘、技術支援等	有機栽培方法研究
5月	加工設備の設計	有機栽培の開始
6月	試作品製造	
7月		
8月	試験稼働	規格外野菜収穫
9月	問題点の改善	
10月	専門家招聘、技術支援等	規格外野菜の保存設備の導入
11月	加工設備の試作品の改良	
12月	専門家招聘、技術支援等	
1月	試験稼働	
2月	加工設備の試作品完成	規格外野菜の保存設備完了
3月	漬け物の試作品完成	

コメント [参考9]: スケジュールは、具体的に記載してください。また、複数年にまたがる事業の場合は、年度別、月別のスケジュールを作成してください。

事業目標、効果	①. ○○食品株式会社は、規格外の有機野菜を使った漬け物製品の売上げを、事業化した年度から5年目に5%の増加を目標とする。 ②. △△農園は、規格外の有機野菜の売上げを、事業化した年度から5年目には5%の増加を目標とする。																		
助成事業終了後の計画等	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>連携体構成員</th> <th>計 画 等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">3年後</td> <td>○○食品株式会社</td> <td>事業化達成。規格外の有機野菜を使った漬け物製品の売上げを、事業化から3%の増加。他の規格外野菜の漬け物製品化の開発</td> </tr> <tr> <td>△△農園</td> <td>事業化達成。原料供給の増加を事業化から3%の増加。他の規格外野菜の供給体制の整備</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">5年後</td> <td>○○食品株式会社</td> <td>規格外の有機野菜を使った漬け物の売上げを、事業化から5%の増加。</td> </tr> <tr> <td>△△農園</td> <td>規格外有機野菜の売上げを、事業化から5%の増加。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 連携体構成員（公的機関は除く）全てについて記載すること。</p>			連携体構成員	計 画 等	3年後	○○食品株式会社	事業化達成。規格外の有機野菜を使った漬け物製品の売上げを、事業化から3%の増加。他の規格外野菜の漬け物製品化の開発	△△農園	事業化達成。原料供給の増加を事業化から3%の増加。他の規格外野菜の供給体制の整備	5年後	○○食品株式会社	規格外の有機野菜を使った漬け物の売上げを、事業化から5%の増加。	△△農園	規格外有機野菜の売上げを、事業化から5%の増加。				
	連携体構成員	計 画 等																	
3年後	○○食品株式会社	事業化達成。規格外の有機野菜を使った漬け物製品の売上げを、事業化から3%の増加。他の規格外野菜の漬け物製品化の開発																	
	△△農園	事業化達成。原料供給の増加を事業化から3%の増加。他の規格外野菜の供給体制の整備																	
5年後	○○食品株式会社	規格外の有機野菜を使った漬け物の売上げを、事業化から5%の増加。																	
	△△農園	規格外有機野菜の売上げを、事業化から5%の増加。																	
助成金の交付を受けた実績	(国、県、市町村、又は公的な団体から補助又は委託を受けている事業など) なし																		
外部への委託	なし																		
委託内容																			
委託機関名及び企業名																			
その他	なし																		

コメント [参考10]: 目標は、以下を基準としてください。

○中小企業者

3年以内に事業化

当該商品等の売上げが、事業化 年度から概ね10年後に3%増加

○農林漁業者

3年以内に事業化

当該商品等の売上げが、事業化 年度から概ね10年後に1.5%増加

コメント [参考11]: 連携体の構成員全てについて記載してください。

コメント [参考12]: できる限り具体的に記載してください。委託業務が複数ある場合は、それぞれについて記載して下さい。

(別紙2)

収 支 予 算 書

1 収入の部

(単位：円)

区 分	本年度予算額	前年度予算額	比較	備考
助 成 金	1,998,000	0	1,998,000	
借 入 金	0	0	0	
自己資金	1,202,000	0	1,202,000	
連携者拠出 金	800,000	0	800,000	
そ の 他	0	0	0	
合 計	4,000,000	0	4,000,000	

2 支出の部

(単位：円)

区 分	本年度予算額	前年度予算額	比較	備考
謝 金	300,000	0	300,000	
旅 費	300,000	0	300,000	
事 務 経 費	3,400,000	0	3,400,000	
委 託 費	0	0	0	
合 計	4,000,000	0	4,000,000	

(別紙3) 経費配分書

(単位：円)

経費区分		助成事業に 要する経費	助成対象 経費	助成金交付 希望額	備考
謝金	委員謝金				
	講師等謝金	300,000	300,000	200,000	
	計	300,000	300,000	200,000	
旅費	委員旅費				
	講師等旅費	300,000	300,000	200,000	
	役職員旅費				
	計	300,000	300,000	200,000	
事業経費	印刷製本費				
	消耗品費	400,000	400,000	266,000	
	資料購入費				
	通信運搬費	100,000	100,000	66,000	
	研究開発費	900,000	900,000	600,000	
	広告宣伝費				
	原稿料				
	保険料				
	調査分析費				
	会場借料				
	機械器具借料				
	機械装置又は工具機器購入費				
	原材料費	1,000,000	1,000,000	666,000	
	設備購入費	1,000,000	0	0	
	計	3,400,000	2,400,000	1,598,000	
委託費	0	0	0		
合計	4,000,000	3,000,000	1,998,000		

注) 経費項目は適宜事業内容に応じて変更すること。例：消耗品費→原材料費

(別紙4)

助成事業を実施するために必要な資金の額及びその調達方法

助成事業区分	新商品・技術開発支援事業
--------	--------------

(単位：千円)

事業年度	今回申請する助成金	政府系金融機関からの借入	民間金融機関からの借入	自己資金	連携者拠出金その他	合計	備考
××年度	1,998	0	0	1,202	800	4,000	
年度							
年度							
合計	1,998	0	0	1,202	800	4,000	

コメント [参考13]: 複数年にまたがる事業の場合は、年度ごとに内訳を記載してください。

※今回申請する助成金以外に、公的補助金や助成金、融資、県・市等からの借入を受ける予定があれば、「連携者拠出金その他」欄に金額を示し、その場合は「備考」欄に補助金名等を明記してください。

(別紙5)

助成事業費の積算明細表

年度	平成××年度	助成事業区分	新商品・技術開発支援事業
----	--------	--------	--------------

※年度及び事業区分毎に、できる限り詳細かつ具体的に記載してください。
事業全体の経費

(単位：円)

経費区分	助成事業に要する経費	助成事業費積算明細	助成対象経費	助成金交付希望額
謝金	300,000	技術専門家 100,000円×3回	300,000	200,000
旅費	300,000	専門家旅費 東京 100,000円×3回	300,000	200,000
消耗品費	400,000	設備試作品開発に係る消耗品 200,000円 有機栽培試験栽培に係る肥料等 200,000円	400,000	266,000
通信運搬費	100,000	規格外野菜運搬費(試験用) 100,000円	100,000	66,000
原材料費	1,000,000	設備試作品開発に係る原材料費 600,000円 検査機器購入費 400,000円	1,000,000	666,000
研究開発費	900,000	試作品開発 900,000円	900,000	600,000
設備購入費	1,000,000	規格外野菜長期保存設備 1,000,000円	0	0
計	4,000,000		3,000,000	1,998,000

コメント [参考14]: 複数年にまたがる事業の場合は、年度ごとに作成してください。

コメント [参考15]: 明細表は、できる限り詳細かつ具体的に記載してください。

連携体構成員（△△農園）の負担経費

(単位：円)

経費区分	助成事業に 要する経費	助成事業費積算明細	助成対象 経費	助成金 交付 希望額
消耗品費	200,000	有機栽培試験栽培に係る肥料等 200,000円	200,000	133,000
通信運搬費	100,000	規格外野菜運搬費（試験用）100,000円	100,000	66,000
設備購入費	500,000	規格外野菜長期保存設備 1,000,000円のうち500,000円	0	0
計	800,000		300,000	199,000

コメント [参考16]: 事業全体の経費の他に、代表者以外の連携体構成員の負担経費についても同様の明細表を作成して下さい。

(別紙6)

申請者（組織・グループ等）の概要確認表

1. 代表者選任方法及び意志決定方法

2. 助成事業実施等に対する責任の所在（正副各1者記載のこと。）

3. 参加企業概要（既存資料があればその資料で可）

項目	参加企業名			
所在地				
代表者				
資本金総額				
従業員数				
主たる生産品目・生産額				
本事業における役割分担				
現有施設 （土地・建物等主要設備等）				
企業略歴に関する資料				

(注1) 任意グループの規約及び組織図を必ず添付すること。

(注2) 研究開発の場合、知的財産に係る取り決めの資料を添付すること。